



学校だより

# たくま

白鷹町立荒砥小学校

令和4年2月25日

## あたりまえの日常から、言葉と心を磨く

校長 菅原 透

冬将軍が旅立ちの時を迎える頃、置き土産をどっさりいただきました。片づけるのには一苦勞ですが、子ども達は遊びの天才。白いグラウンドをかけまわる姿をほほえましく校長室から見守っています。

さて、コロナの勢いが止まりません。私達の生活を脅かし続けて2年。新しい生活様式の中で“我慢”を強いられています。大人でもきついのに子どもはいかばかりか…。幼少期に体験すべき大切なこと…。様々な行事はもとより、元気いっぱい動いたり声を出したり…。柔和な表情で心を通わしたり言葉を交わしたり…。しなやかな心を育む貴重な経験が抜け落ちないか、本当に心配です。身近な人との“密”な関係を紡ぎあげてほしいと願います。

あさ早く じいちゃんゆきかき ありがとう  
くつ下ぬれず とう校できる

なんとすてきなんでしょう。一年生の作品です。毎日のあたりまえの生活の中で、あらためて、人とのつながりやしていただいていることへの感謝の思いを持つ。大人も見習わなくてはいけない…。ホッと、はっと、させられました。

あさがお

ぼくはみずやりをしました  
ふたばがゆっくりでできました  
ほんばがどんでんできました  
つるがくねくねのびました  
あるひ あかむらさきの  
つぼみができました  
つよいはながさきますように



過日、山形新聞でも紹介されましたが、芳賀秀次郎賞最優秀の一年生の作品。子どもの感性とはなんとすごいのでしょうか。すなおに見つめること、感じること。優しくたくましい心が育つこと、まちがいなしですね。

楽しかった

山形市に蔓延防止措置が発令されて、蔵王にいけなくなったことをお父さんから聞いた時は、立ち直れませんでした。朝日自然観について調べてみたら、おいしそうなカツカレーの写真が出てきて、そこで立ち直りました。

もちろん、スキーも楽しかったし、カツカレーもうまかったけど、一番は、友だちとの仲が深まったことだと思いました。

こちらは6年生のもの。蔵王に行けなくなった時の思いとスキー教室の楽しさが、絶妙な表現で伝わってきます。心の成長を感じつつ、心がほっこりと和みました。

“ゼロ密”の約束で、物理的な接触がままならない世の中です。でも、質的なつながりは、一人ひとりの心がけ次第。このようなすてきな言葉を、子ども達からいっぱい聞きたいと思いませんか。そのためには、日常の会話を積み上げ、持てる力や感性を伸ばし、磨いていくことが肝要かと思えます。あったかい言葉が心をあったかくし、優しい言葉が心を優しくする。安心して安定した心は、すてきな言葉を生み、人との関係や社会を豊かにする…。せわしい毎日ですが、その中に潜む“ありがたさ”への感謝の念を大切にしていきたいと思います。